

日本学会議  
ジェンダー研究分科会シンポジウム

# 医学・医療における性差別 (無知と無認識の現状)

JAMP (日本女性医療者連合)  
医療法人社団ウィミンズ・ウェルネス

産婦人科医師 対馬ルリ子

# OECD加盟国の女性医師の割合 OECD Health Statistics 2015



注1 「OECD単純平均」とは、各国の女性医師の割合を国間で平均をとったもの。  
 注2 「OECD加重平均」とは、OECD加盟国全体における女性医師数を総医師数で割ったもの。  
 注3 \*の国は2013年のデータ、\*\*の国は2012年のデータ、それ以外は2014年のデータ。  
 注4 オーストラリア、フィンランド、アイルランドは推計値。

出典：OECD Health Statistics 2015、平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査

# 日本女性の美徳はあきらめ？

東京医科大の不正入試問題（2018年8月）

以前から、医学部・医療関係者は、

「女子を入試で差別している」

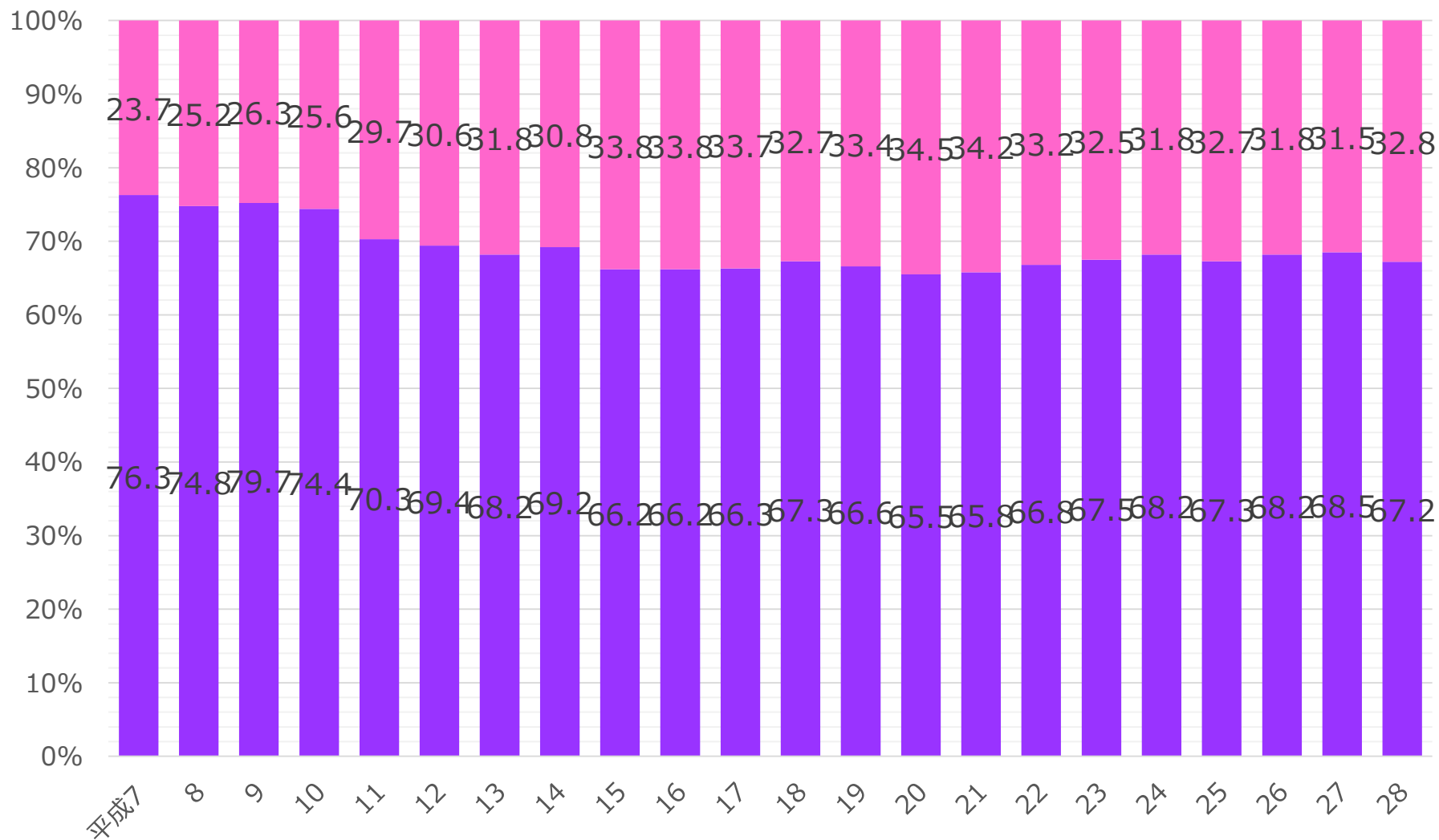
ことに気がついていた。

しかし、JAMP結成まで、

特に行動や発言をおこすものはいなかった。

# 医師国家試験合格者の男女比

■男 ■女

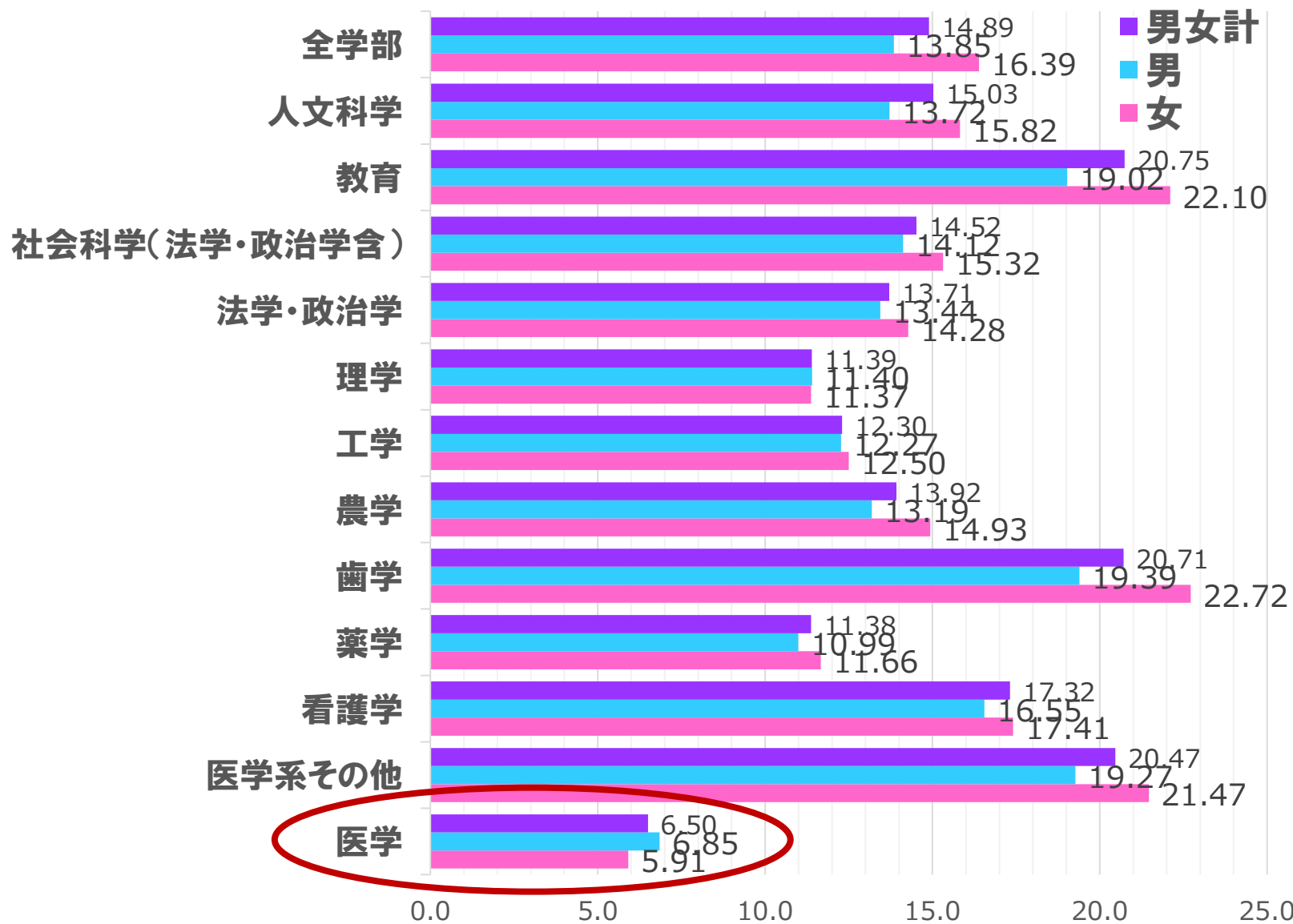


# 東京医科大学医学部医学科一般入学試験における女子受験者得点への恣意的操作について

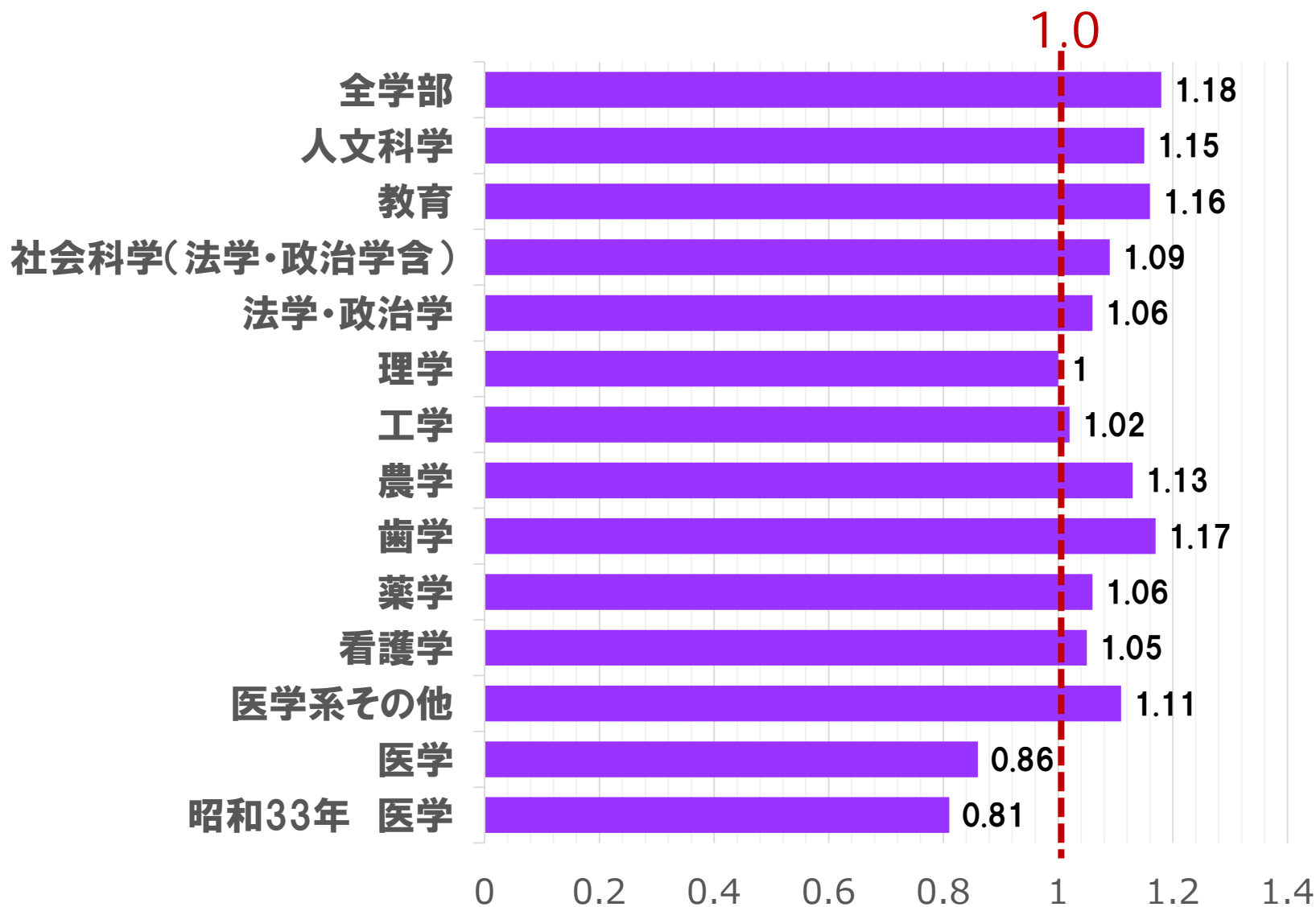
医師国家試験合格者に占める女性の割合が徐々に増えつつあった2003年頃、女性医師5割時代が来ることが期待されていましたが、その後約15年間女性の比率が増えないことに疑問を感じ、女性の参画を阻む要因を探ってきました。そのひとつが「医学部入試合格率の男女差」です。

2017年8月と9月の2回にわたり、JAMPのトピックスとして、女性医師を「増やさない」というガラスの天井～医師・医学生女性の女性比率に関する分析～(種部恭子理事の論考)を掲載し、医学部入学時にゲートコントロールされている可能性を示唆しました。

# 学部別大学合格率 (文部科学省 平成28年学校基本調査)



# 大学入試学部別合格率の男女比



# 医学部合格率男女比一覽

## (男性を1とした場合の女性の割合)

東京医科大学	0.33
聖マリアンナ医科大学	0.39
山梨大学	0.42
日本大学	0.45
岐阜大学	0.48
新潟大学	0.50
慶應義塾大学	0.55
防衛医科大学校	0.56
北海道大学	0.56
順天堂大学	0.62
名古屋市立大学	0.64
広島大学	0.64
東北医科薬科大学	0.66
滋賀医科大学	0.66
千葉大学	0.66
大阪市立大学	0.67
昭和大学	0.68
山口大学	0.69
名古屋大学	0.69
京都府立医科大学	0.70
横浜私立大学	0.71
信州大学	0.74
三重大学	0.75
産業医科大学	0.76
藤田保健衛生大学	0.76
岩手医科大学	0.76

熊本大学	0.77
久留米大学	0.78
九州大学	0.79
筑波大学	0.79
旭川医科大学	0.79
愛知医科大学	0.80
金沢医科大学	0.80
福岡大学	0.81
高知大学	0.81
奈良県立医科大学	0.82
佐賀大学	0.82
日本医科大学	0.84
国際医療福祉大学	0.85
京都大学	0.85
山形大学	0.85
大阪医科大学	0.87
東北大学	0.87
札幌医科大学	0.88
鳥取大学	0.88
徳島大学	0.89
東海大学	0.90
兵庫医科大学	0.92
宮崎大学	0.93
岡山大学	0.93
秋田大学	0.93

川崎医科大学	0.94
香川大学	0.94
北里大学	0.96
長崎大学	0.96
和歌山県立医科大学	0.98
大阪大学	0.98
東邦大学	0.99
東京医科歯科大学	1.01
東京慈恵会医科大学	1.02
鹿児島大学	1.02
琉球大学	1.04
浜松医科大学	1.04
愛媛大学	1.05
関西医科大学	1.08
群馬大学	1.08
埼玉医科大学	1.00
獨協医科大学	1.00
金沢大学	1.13
神戸大学	1.15
弘前大学	1.24
自治医科大学	1.29
杏林大学	1.34
大分大学	1.44
福井大学	1.50
島根大学	1.64

出典：ハフントンポスト2018年08月11日 07時00分

8 全医学部に聞いてみた。男女の医学科合格率、大学でこんなに違う【独自調査】

2019年2月1日JAMPメディアセミナー資料



# 女性医療者の現状

女性医師	59,641人 (19.7%)
女性歯科医師	22,295人 (21.7%)
女性薬剤師	170,788人 (61.7%)

(平成24年)

女性医師・歯科医師・薬剤師は、現在約25万人に達しているが、現在でもなお一般の就労女性と同様に、就労継続、専門性の追求、管理職昇進への困難が存在している。

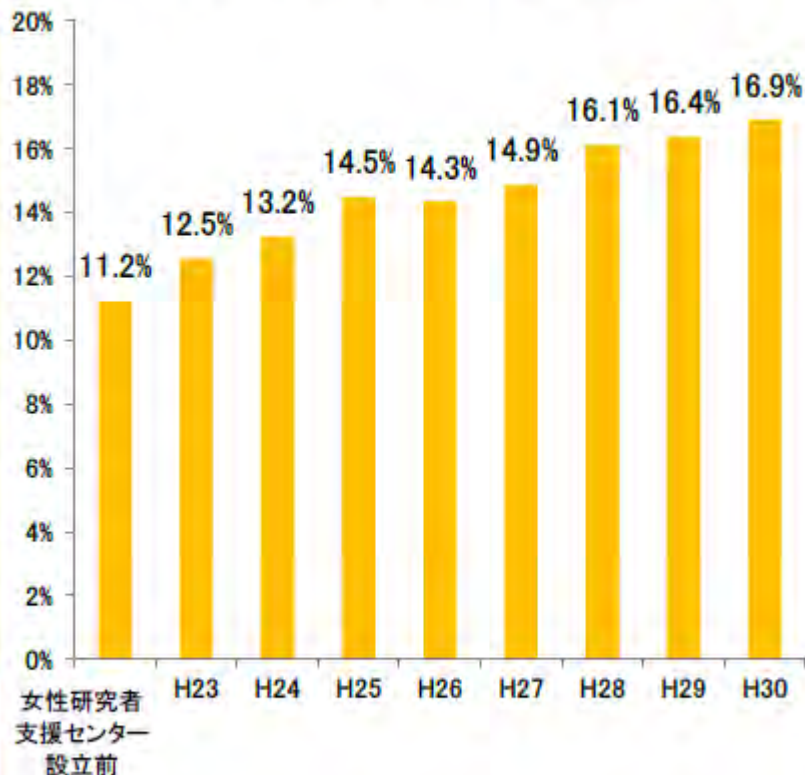
家庭においては妊娠出産、育児、家事労働者として、夫や親の介護者として期待され、職場では、転勤や長時間労働、学会参加や研究、管理職勤務に対し困難を感じている。

女性医療者自身の、自己価値観や責任感の低さも指摘される。

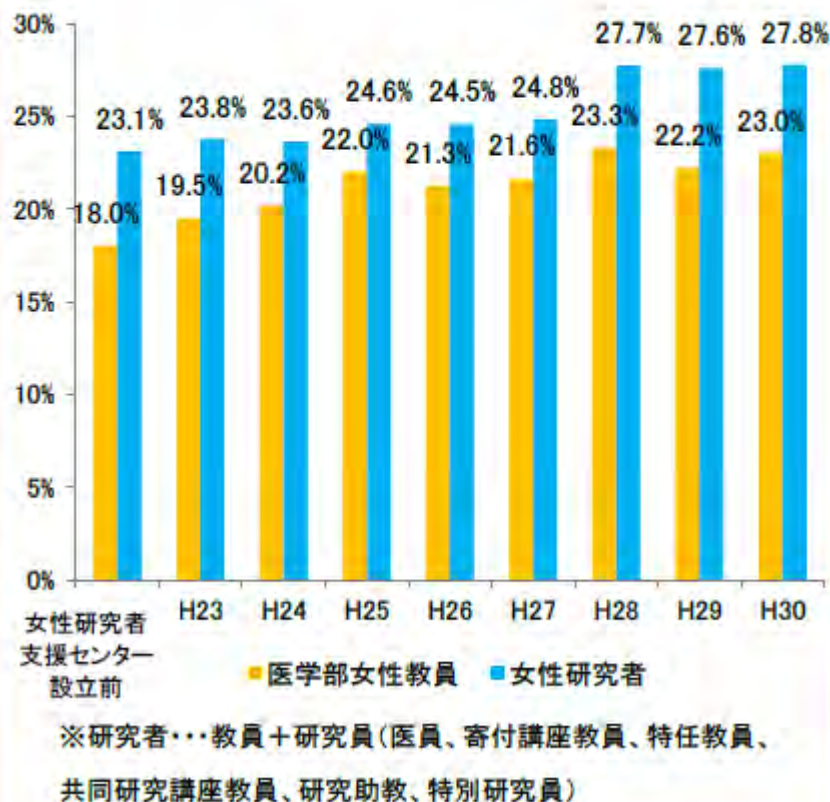
# 奈良医大の例

## 女性研究者割合の推移

### 【医学科女性教員割合】



### 【医学部女性教員・研究者割合】



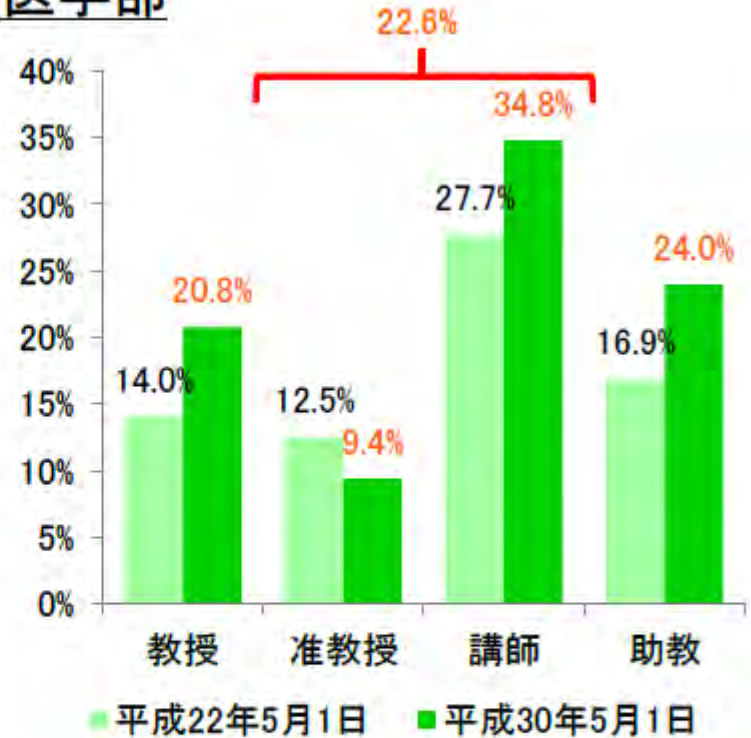
## 教員女性割合(職位毎)

### 医学科



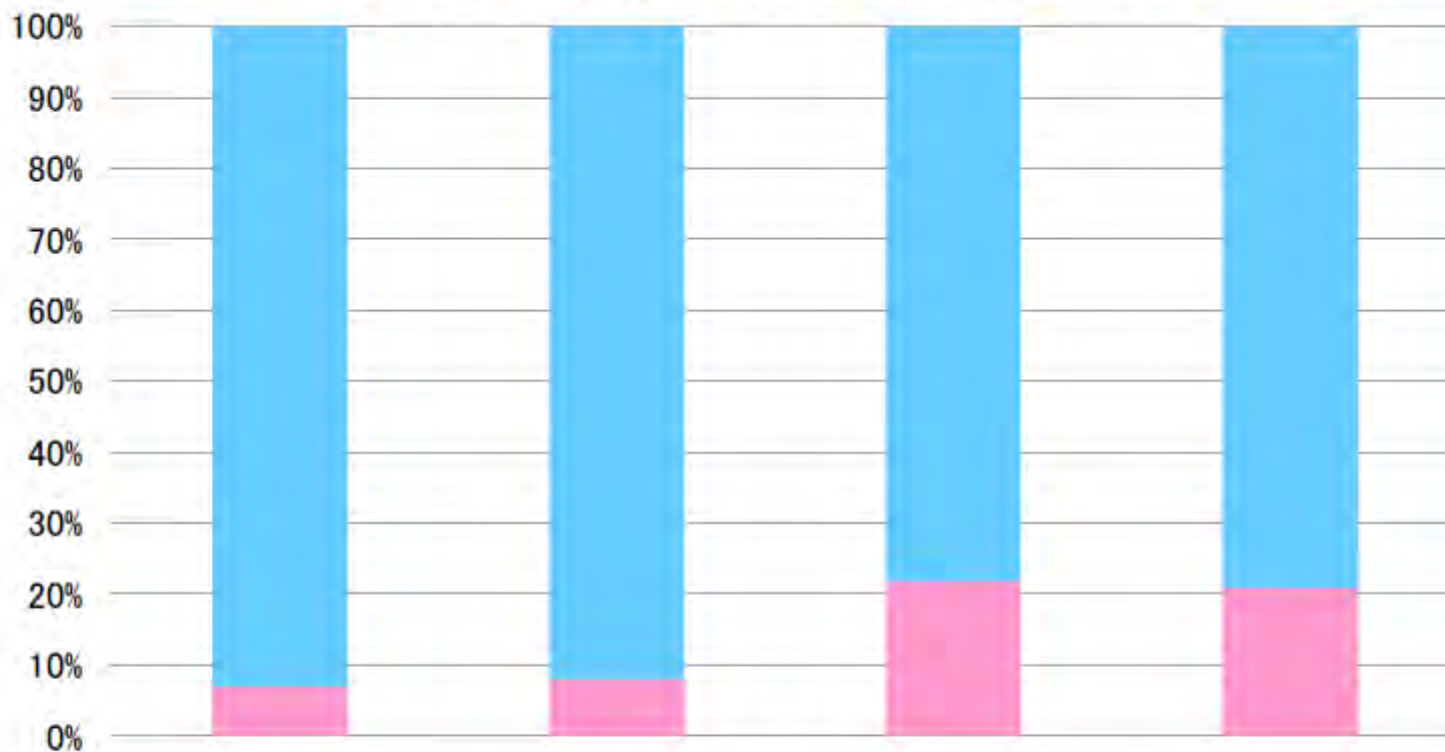
	センター設立前	平成30年度
教授	4.7%	7.0%
准教授・講師	6.9%	14.4%

### 医学部



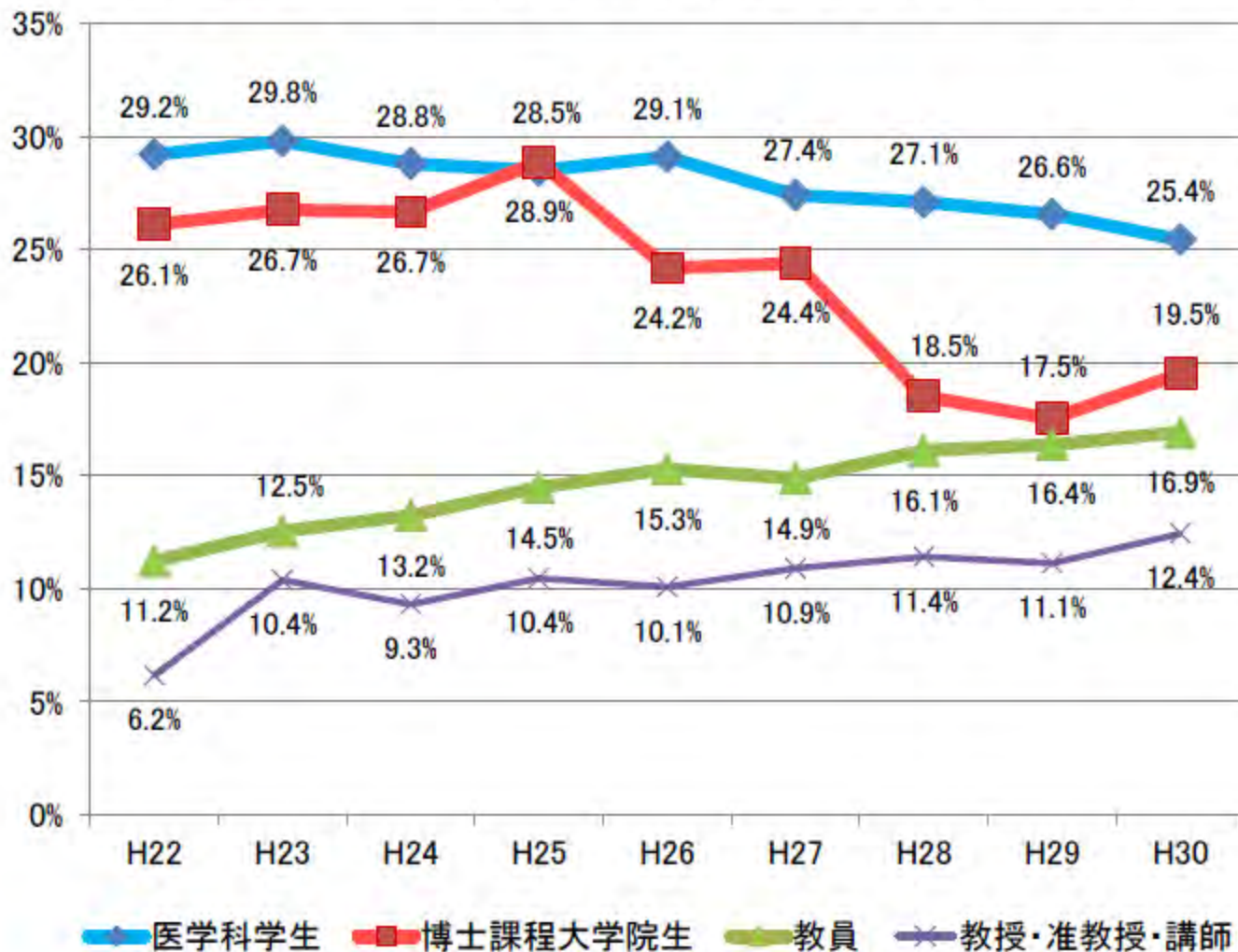
	センター設立前	平成30年度
教授	14.0%	20.8%
准教授・講師	21.9%	22.6%
助教	16.9%	24.0%

## 医学科教員の職位別の男女比



	教授	准教授	講師	学内講師+助教
■ 男 (人)	40	58	43	144
■ 女 (人)	3	5	12	38
全体 (人)	43	63	55	182

## 医学科学生・教員・上位職教員の女性割合



この度、2018年8月2日の讀賣新聞において、東京医科大学医学部医学科一般入学試験における女子受験者得点への恣意的操作が、JAMPが示してきた医学部入試の合格率の男女差のデータと合わせて報道されました。加えて、この事実に対して、女性医師のライフイベントによる労働力率低下が理由付けされたことに対しても、強い憤りを感じております。

このの恣意的操作は、ひとしく教育を受ける権利および性別を問わず法の下に平等であることの権利の侵害であり、多くの女子学生の夢を砕き女性医師の意欲を削ぐ大変残念な結果をもたらしました。加えて、問題の本質である医療制度の課題を、女性医師の問題にすり替えられていることも遺憾です。

JAMPは、次の2点への理解と実践こそが、女性医療者の活躍推進と日本の医療安全にとって重要であることを強く訴えます。